

連載：原点

## 「教員になって」

船橋東高等学校 箱崎 裕貴

私は、生まれてから高校3年生まで北海道札幌市に住んでいました。小学生のころからの夢であった「高校の先生になって、野球部の監督として甲子園に行く」という夢を叶えるために、高校生の時、教師になることを決意し、青森県の弘前大学理工学部数理科学科への進学を決めました。そこで大学の仲間と4年間、採用試験合格をめざし切磋琢磨しました。そして大学4年生の時、私は教員採用試験を受けて無事合格することができました。それからの半年間というもの毎日昼に起きて、午後はスポーツをし、夜はお酒を飲み、日付が変わってから寝るといような不規則な生活を送っていました。そのような生活から一変、4月からは5時に起き、22時に寝る生活になり、最初は大変でしたが、今は慣れてきました。

私には講師の経験がなく、塾講師の経験もなかったので、数学の授業をするのは教育実習のとき以来でした。最初は、全然上手くいきませんでした。生徒を見ていない、声が小さい、板書がわかりにくい、字が小さい、など散々な結果でした。それから3か月間授業をしていくなかで、指導教官の先生にいろいろと指導をしていただいて、少しずつですが改善していくことができています。現在の大きな課題は、生徒一人ひとりの様子を見ながら授業をすること、板書をわかりやすくすることです。また、現在の状況として、できる生徒とできない生徒の差が大きくなってきている感じがするので、この現状を少しでも打開できるように授業を改善していくことも今後の課題です。授業を改善することに終わりはないので、教壇に立っている間は、常に改善を心掛けていきます。

また、現在私は剣道部の顧問をしています。剣道の経験がない私ですが、生徒達やもう一人の顧問の先生に教えてもらいながら、少しずつ剣道を覚えているところです。この歳になって初めて剣道をやってみて剣道がこんなに痛くて大変なスポーツなのだとことを知りました。面を打たれると頭を打撲し、小手を打たれると腕に痣ができてしまいます。さらに先日練習中に腰を痛めてしまい、それから3週間程経った今でもまともに眠ることができない日々が続いています。教員になって、こんなに辛い思いをするとは思っていませんでしたが、顧問を任せられた以上剣道から逃げるわけにはいかないので、体の痛みと闘いながら頑張っていかなければいけないと思っています。

教員になって4ヶ月たち、部活動の顧問は大変ですが、他の仕事は充実していますし、教員になって良かったと心から思っています。教師は、教えるプロであり、また、学びのプロでなければいけないと思うので、志を高く持ち日々成長していきたいです。

## 「感謝の気持ちを持って」

佐原白楊高等学校 津幡 翔

私の教員生活は、昨年度、臨時的任用講師として白井高等学校でスタートしました。教員採用試験に合格し、今年度から佐原白楊高等学校に勤務しています。教員を志すようになったのは、熱心に指導して下さった高校の先生方がいたからだと思います。人の役に立つ仕事をしたいと思っていた自分にとって、先生方の姿は魅力的であり、また、本当にお世話になりました。

大学を卒業し、臨時的任用講師として過ごした昨年度の1年間は、すべてのことが初めてであり、悪戦苦闘の日々でした。挫折しそうになることもありました。授業の仕方のアドバイスをしてくださった先生や、業務をサポートしてくださった先生、また、悩みを聞いてくれた先生方には、とても励まされました。

4月から勤務している佐原白楊高等学校では、昨年度と地域や生徒の様子などが異なり、当初は戸惑いを感じることもありました。同じ科目を指導するにしても、昨年度と同じやり方では生徒からよい反応を得ることはできませんでした。校内の運営についても、また一から覚えることばかりでした。そんな中、教材研究を繰り返し準備した授業で、生徒からよい反応が得られたときにはとてもやりがいを感じました。現在は、数学IIを担当していますが、白楊生の授業への取り組みの姿勢や学習への意欲には驚かされます。私の話を熱心に聞き、授業についていこうとノートを取る白楊生の姿を見ていると、生徒たちのやる気には負けないように私自身もより一層わかりやすい授業づくりに努めていかなければならないと感じています。新たな環境で、その学校の生徒に必要な指導、その学校で求められる取り組みを考え、生徒一人ひとりの進路実現をサポートしていきたいと思っています。

また、昨年度と同様に顧問をしている野球部では、多くの時間を部員と共にグラウンドで過ごし、部員たちの目標が達成できるよう日々厳しい練習を行っています。その中で、日頃から部員には、「周囲の人々、環境、いろいろなものに感謝して、取り組まなければいけない。」と指導しています。部活動の指導では、普段の授業とは異なった雰囲気の中で生徒たちと触れ合える場面が多くあると感じました。これからは、的確な指導ができるように専門的な知識を得たり、環境を整備することにより、生徒が納得のいく活動をできるように支援していきたいと思っています。また、部活動での経験を糧に社会をたくましく生きていける生徒を育てていきたいと思っています。

未熟な私に御指導して下さった先輩教員の方々への感謝の気持ちを忘れることなく、今後もより一層努力していきたいと思っています。また、生徒にも、さまざまな教育活動を通じて、感謝の気持ちを持つことの大切さを伝えていきたいです。そして、いつの日か私自身も生徒から感謝されるような教員を目指します。

## 「教員になって」

柏陵高等学校 奈良 綾子

私が教員になろうと思ったのは高校生の頃です。都立の定時制高校の数学の先生が非常勤講師として私が通っていた高校に来ていました。その先生は土曜に授業とは別に数学の講座を開いていました。実際、私は数学の授業は他の先生に教えていただいていたのですが、その講座を楽しみにしていました。生徒の為に自分の損得を考えずに動くその先生が大好きで、私もそのようになりたいと思ったのがきっかけでした。

大学を出る時にはバブルが崩壊し、第二次ベビーブームに生まれているので、教員採用試験の倍率が高く、卒業の為に論文も書かなくてはいけないこともあって、教員採用試験は受けず、大学に就職しました。それから8年半してから初めて臨時的任用講師として教壇に立ったのは埼玉県の中立高等学校でした。その後、茨城県の公立高等学校、千葉県私立の中高一貫教育の学校、柏陵高等学校、湖北高等学校で働き、今まで臨時的任用講師として1年という短い期間でしたが、色々な学校を経験できてとても良かったと思っています。今年4月に今度は教諭として柏陵高等学校に戻ってきました。

これからは1年間ではなく、少なくとも数年は同じ学校で勤務する事になるので、生徒の3年間の成長に関わる事ができる事は嬉しく思います。反面、責任も増します。私の何気ない一言でやる気になったり、無気力になったりする生徒もいると思うので、自分の言動には今まで以上に注意しなければならないと思います。また至らない点は直そうと努力し、生徒と共に成長していきたいです。

来年度からはクラス担任をする機会があるかもしれませんので、今年度は他の先生方の動きを観察し見習って、勉強させていただきたいと思っています。